令和5年度 歯学部過年度卒業生へのアンケート調査結果について

1. 趣旨

岩手医科大学では、本学における教育の質保証を目的として、平成30年に「学習成果の評価検証方針及び指標」を定め、これによって3つのポリシーに基づいた教育が実施されているかを検証することとしている。

ここでは、指標の一つである「卒業アンケート」について、卒後 5 年、10 年の学生(看護学部除く)を対象に実施したアンケート調査結果について報告する。

2. 概要

調査対象 歯学部卒業生

第 44 期生【平成 26 年 3 月卒業】 51 名 (卒後 10 年目)

第49期生【平成31年3月卒業】 47名 (卒後5年目)

調査期間 令和5年8~9月

実施方法 インターネット (Google Form) を利用した Web アンケート

質問内容 ① 氏名、性別、年齢、お住まいの地方、卒業年度(〇期生)

- ② 現在の状況、勤労状況、勤務形態
- ③ 臨床研修を受けた都道府県、専門研修(後期研修)の選択科または選択予定科※医学部のみ
- ④ 専門医の取得状況 ※医学部のみ
- ⑤ 学位の取得状況、満足度 ※医学部のみ
- ⑥ 学位授与方針に対する卒業時の自己評価
- ⑦ 岩手医科大学での学びのキャリア選択への貢献度
- ⑧ 岩手医科大学のカリキュラムに対する満足度
- ⑨ 岩手医科大学での学びの地域医療への貢献度
- ⑩ 岩手医科大学への満足度
- ⑪ その他

3. 結果

【回収率】

歯学部 第 44 期生 22.7%(10/44 人(51 人)) 第 49 期生 32.6%(14/43 人(47 人))

詳細は別紙の通り。

4. 総括

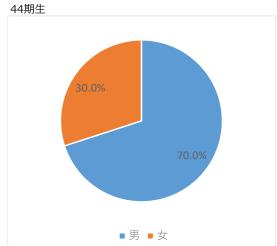
- ・設問2勤労状況について、大学病院の他、医療法人や個人(開業医)での勤務者の比率も高い。
- ・設問 4 学修成果の達成では、他の卒業生と同様に「国際貢献への資質」「研究マインド」の自己評価が低い他、「地域保健・医療」の達成率が低い。
- ・設問 5 カリキュラムへの満足度について、44 期生、49 期生のいずれも「満足している」「ある程度満足している」が合計で60%を超えており、満足度は概ね肯定的である。ただし、44 期生では「満足していない」「あまり満足していない」と

いう回答が一部見られるほか、地域医療への貢献度でも否定的な回答が散見される。全体的には比較的高く評価されており、本学の使命が実行されていることが伺える。

・設問7本学を卒業してよかったかという問いに対して、概ね良好な結果が得られている。

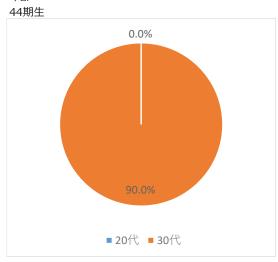
歯学部

性別





年齢





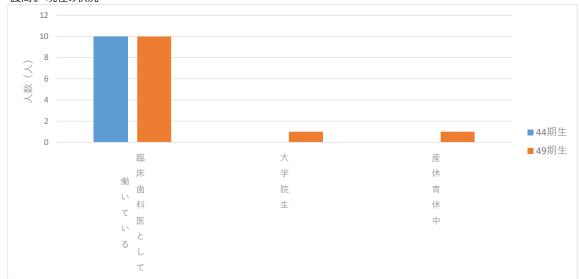
住まい

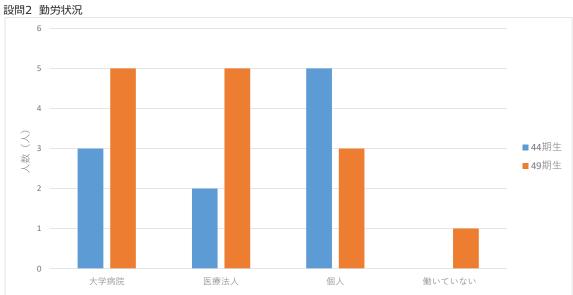


49期生

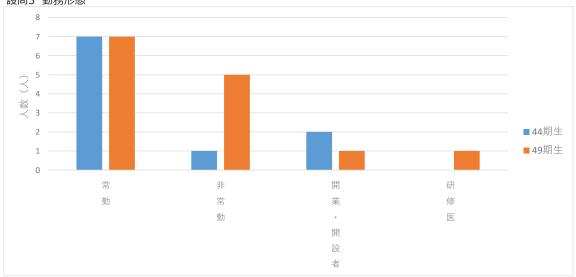


設問1 現在の状況

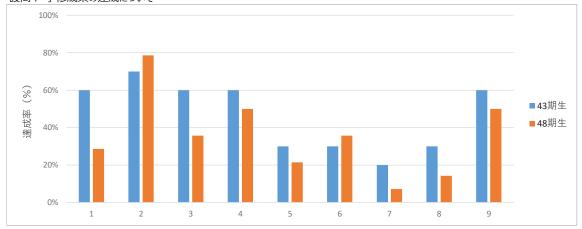








設問4 学修成果の達成について

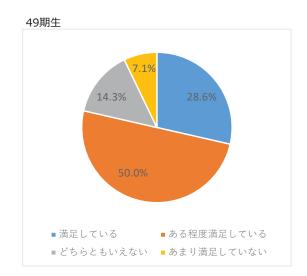


- 1. 歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解し、高度な専門性と豊かな人間性と倫理観を有すること。(プロフェッショナリズム)
- 2. 患者・家族に歯科医療の内容をわかりやすく伝え、彼らの気持ちに配慮しながら良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えること。(コミュニケーション能力)
- 3. 医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践すること。(チーム医療の実践能力)
- 4. 科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践すること。(包括的歯科医療の実践能力)
- 5. 地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取組む態度・技能が備わっていること。(地域保健・医療の実践能力)
- 6. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で修得していること。(高水準の診療能力)
- 7. 国際的な保健・医療活動に参加するための態度と基本的な語学能力を有すること。(国際貢献への資質)
- 8. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有すること。(研究マインドの保持)
- 9. 生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっていること。(生涯学習の実践)

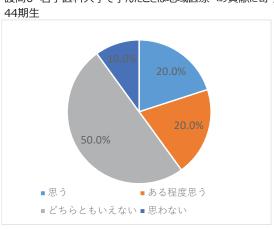
設問5 かりキュラム満足度

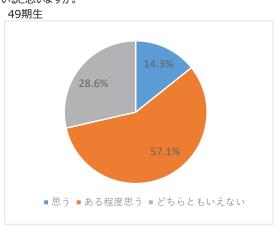
44期生





設問6 岩手医科大学で学んだことは地域医療への貢献に寄与していると思いますか。





設問7 岩手医科大学を卒業して良かったですか。 44期生

